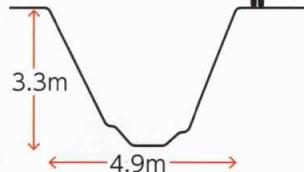


香取遺産



遺構の断面図



vol.183

大戸通崎遺跡 —謎の大型遺構—

大戸通崎遺跡は、大戸地先の谷地を望む見通しの良い台地上に存在した遺跡です。近くには、古代に政治的に重要な役割を持つた香取神宮と関係が深い、大戸神社があります。

遺跡は昭和61年に発見され、急きよ行われた発掘調査では、奈良・平安時代の竪穴住居跡12軒と奈良時代の円形遺構1基が確認されました。円形遺構は直径4.9m、深さ3.3mの大型のもので、すり鉢状の掘り込みがあり、下部は段堀りされ、底は直径1mの平らなところに火をたいた痕跡がありました。発見された当時は、このような遺構の存在は、あまり知られておらず、謎の遺構となっていました。

近年では、各地の発掘調査の成果により、類似した大型の円形遺構が、関東から東北で、古代の主要な政治拠点や交通路近辺から発見されることが明らかになつきました。これらの遺構は円形有段遺構と呼ばれ、その性格についてはさまざまな議論が行われています。

溜井戸説、貯蔵庫説、ごみ捨て穴説のほか、朝廷に献上する水の保管庫に似ていることから氷室説、火をたいた痕跡が認められるものがあることから狼煙の点火施設とする説などがあります。

遺跡は既に消滅していますが、記録保存されているため、発見当時には不明だった遺構の性格を、新たに得られた情報から検討することができます。今後の調査研究の成果から謎が解明されるかもしれません。